

なないろ

— Seven Color —

川口市立戸塚中学校

46期2学年通信 No.19

令和6年5月2日(木)

自律と他律 家庭学習への挑戦①

「先生、家だとやる気が起きないんですよ。」

そういう質問が後を絶たない。なぜ、家だと勉強できないのか…。G・Wも後半戦です。この時期の家庭学習は大きく差が開くとも言われているので、ここで君たちに伝えておこう。

学校の勉強は、チャイムが鳴る前に席に着くなど、いろいろな学習のきまりがあります。また、よそ見・私語は、先生から注意されます。さらに、クラスでみんなと勉強するので、自然と競争心がわきます。そのため、他律的な要素がかなり強いといえます。

これに対して家庭学習は、むしろ自由で、自律的といえます。そこでは、家庭の雰囲気や本人のやる気と工夫が必要で、その差が決定的になります。

人間は、ムード・気分が大きく左右される生き物です。楽しく明るい、しかも落ち着いた家庭の雰囲気は、子どもを勉強する気にする大切な条件です。

「じゃあ、家が悪いんだ」「お母さんやお父さんのせいだ」

残念ながらそれはナンセンスです。

はじまる
自分から
すべからず

なぜなら、勉強の主演は、中学生のみなさんだからです。

そろそろ精神的にも自立する時期です。友だちと自分を比較し、自分の特徴（長所・短所）にも気づき始めていると思います。性格・スポーツ・勉強、いろいろな面で、みなさんはきわだった個性をもっています。その個性を勉強に生かしていけるかどうかが今後の人生を決めます。

何を勉強するのか、どんなふうに勉強するのが自分に一番あっているのか、それを考えることが家庭学習で最も大切なことです。

これから、家庭学習のことで工夫できることを3つ書いてみます。ぜひ参考にしてください。

1. 得意科目をつくる

野球で、よいバッターは、相手ピッチャーの投げるボールを予想し、的を絞って打ちます。インコース高めの直球を狙うとか、カーブの曲がりっぱなをたたくとか、一点に絞って待ちます。ストライクでさえあれば、どんなボールでも振り回すというのでは、三振か、せいぜい凡打です。

勉強でも、一つの的に絞って頑張りましょう。

『好きこそものの上手なれ』といいます。9教科の中で、自分が一番好きな教科を選び出し、それを完全に自分の得意教科にしてしまいましょう。

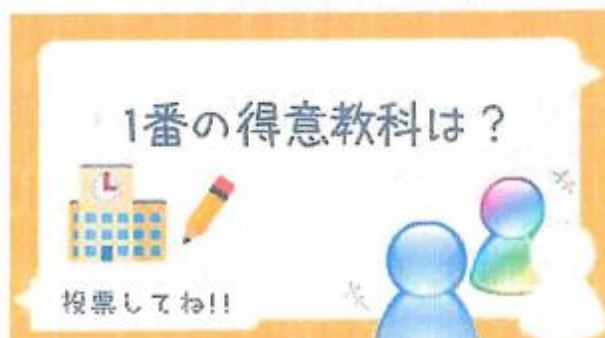
その場合大切なのは、山登りと同じで、一気に山頂までかけ上がらないことです。途中で息切れし、つぶれてしまっはなんにもなりません。時間はかかってもよいのです。着実に一步一步進むことです。

『一步前を照らせ』というのが、学習の場合にも大原則です。今、50点しかとれていない人は、次のテストで60点を狙うのです。テストのたびに10点ずつ上げていけば、ついには80点、90点という、よい点がとれるようになります。

得意教科になるところまで、粘りぬいてください。

得意教科というのは、自分がそう思っているだけではだめです。

周囲の友だちからも、先生からも認められるようになるまで、頑張ってください。自他ともに認める得意教科を、あなたもてるようになれば、世界が変わってきます。それは、ゆるぎない君たちの自信となります。一つでも、こうした自信ができれば、あとは連鎖反応です。次の新しい教科へと目標を変えていきます。そうして、得意教科を増やしていけばいいのです。



※先生が集計しています。